

横川 善正 副学長

Yoshimasa Yokogawa

✉ yoshimasa.yokogawa@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword

文学、芸術、福祉、ホスピス

プロフィール

1974年 金沢大学大学院 文学研究科修士課程修了 文学修士
 1979年 文部省長期在外研究員 英国エディンバラ大学文学部研修
 1995年 金沢美術工芸大学 教授(英文学) 大学院担当(デザイン論)
 2010年 金沢美術工芸大学 学長補佐, 教務学生担当理事 同大学名誉教授
 2018年 公立小松大学 副学長

研究分野

芸術論・英文学

所属学協会

アートミーツケア学会

専門分野・研究分野

ケアの時代が求めるアートについて:

ホスピス・外に出た終の家、ターミナルアート、人生という「作品」

20世紀の後半に病院とは一線を画した医療施設として英国で誕生したホスピスは、21世紀に入り、欧米や我が国において 病院型、独立ホーム型、在宅型等のさまざまな形態をとりながら、鎮痛・鎮静、トータルペインケアといった緩和ケア技術(パリアティヴ・ケア)の進歩をもたらした。終末期という人生の極まった時間を過ごす「痛む者」や「弱い者」が本当に必要とするケアとは何なのかを、国内の緩和ケア病棟および、国外では主としてイタリア北部の都市トレヴィーゾにあるホスピスで調査してきた。

共通するテーマとして、終末医療にかかわるケアテイカーにとって、「生きる自由」とともに「死ぬ自由」の確保というアンビバラントな選択を迫られているという現実がある。これは、出来る限り平穏で健康な日々を過ごすだけでなく、納得のゆく幸せな人生の終末を願望する人々のみならず、今日の多死化と高齢化が加速する社会全体にとっての難題といえる。こうした現状を映し出すかのように、自死について否定的な国とみなされてきたイタリア社会でも、ホスピスでの「安楽死」の問題が喫緊の課題となりつつある。長寿高齢社会を迎えた我が国との比較においてこれを検証する。

研究内容

医療や福祉の分野でもとめられるアートについて、国内外のケアの現場でのワークショップをとおして考察。

「もうすぐ死ぬのでしょ、どうせ終りなのだから」という、ニヒリズム(諦めと倦怠)とシニシズム(不信と自棄)の空気が、病を得た高齢者のみならず健康な若年層のあいだにも瀰漫している。我が国の介護施設やホスピスが直面する課題の一つに、病気や老化に伴う長い「終末期」における安易な「安楽死」による拙速を戒め、いかにして人生の幸福な最期につなげるかという点がある。

死と向き合い、痛みと不安のなかにあっても、最期を生き尽くすところがホスピスであり、そこに注がれるすべての知恵と感性の技を「ターミナル・アート」と私は呼んできた。生き甲斐をみつけるだけでなく、不安を抑制する何か、あきらかに芸術の潜在力として存在することが、世界各地の医療の現場で確実に経験値として認められつつある。終末期の恐怖や痛みの不安を和らげ、鎮静への拙速を戒め、最後まで生き尽くそうとするひとのための「このころの点滴」としてのアートが求められている。



メント・アルス
(アートを忘れるなかれ)

シーズ・地域連携テーマ例

- ホスピタリティ・アートプロジェクト (HAP, SNAP)

受賞

- 平成22年、金沢市より、「泉鏡花記念金沢市民文学賞」
- 令和元年、ITCクラブ会より、「石川テレビ賞」

論文

- 「ターミナル・アート」ーデッサンとデザインの現場を振り返ってー 横川善正 「金沢美術工芸大学紀要」第61号 (pp.29-37) 平成29年3月

書籍等出版物

- 『ホスピスからの贈り物：イタリア発、アートとケアの物語』 単著 筑摩書房 平成28年(2016)
- 『ホスピタリティアート・プロジェクト：病院を安らぎの空間に』 共著 新潮社 平成29年(2017)
- 『世界の社会福祉』全12巻 第4巻南欧編 7章イタリア担当 共著 旬報社 令和元年(2019)
- 『スコットランド、浮上する「石と水の国」』 単著 (e-book) (株) 22世紀アート 令和3年(2021)
- 『いのちをもらい、いのちをつくる、ホスピス』ーイタリアの終末介護のパイオニアたちー 単著 (株) 22世紀アート 令和3年(2021)
- 『ミス・クランストンのティールームーC.R.マッキントッシュと「美覚」のデザイナーたちー』 単著 (株) 22世紀アート 令和4年(2022)
- 『境界神テルミヌスと寄り添いのアーティストたち』 単著 (株) 22世紀アート 令和4年(2022)

講演・口頭発表等

- アートミーツケア学会金沢大会、基調講演『ホスピタリティアート・プロジェクトの視座』 平成25年11月(2013,11)
- 日本仏教看護・ビハラー学会 第11回年次金沢大会 シンポジウムで発表 『死とアート』 平成26年8月(2014,8)
- イタリアのトレヴィーゾのホスピス「桑の木の家」の代表アンナ・マンチーニ氏を招聘し、シンポジウム『夢の実現』を済生会金沢病院で開催、講演および通訳 平成27年3月(2015,3)
- 上記イタリアのホスピスの設置25周年記念式典にて講演 平成30年9月(2018,9)

競争的資金等の研究課題

- 「ホスピスの現場からみたアートの可能性」 科研助成事業(基盤研究C) 2007-2009

社会貢献活動

- アートミーツケア学会理事(2006ー現在)、同学会の『オンラインジャーナル』編集長(2014ー現在)